



第2回 「定住外国人」メディア懇話会「ドイツにおける移民問題」

2017年6月20日（火）11:30 からシーボニアクラブ（霞が関・日比谷中日ビル）で第2回定住外国人に関するメディア懇話会を開催した。

毛受敏浩日本国際交流センター執行理事（未来を創る財団理事）を講師に、この日の主題は「ドイツにおける移民問題」。



ヨーロッパで最もうまくいっている移民政策とされてきたが、難民急増にどう立ち向かうかにも注目が集まる。

第二次大戦後、長い間、ドイツはトルコからの移民を中心に国策として、外国人受け入れを積極的に進めてきた。

戦後の廃墟から立ち上がり、ヨーロッパをけん引する製造大国、経済大国として復活した影には、賢明な移民受け入れ政策があったとされている。

ドイツでは、移民に対して、言語能力のテストを実施し、一定のレベルに達していない外国人には、年間600時間の言語研修の受講を義務付け、労働者、生活者として、円滑な受け入れを図っている。

イスラミックステートなどの不安要因による昨今の急激な難民流入に対して、国策の変更を行うのか、難民の通過国や周辺EU諸国への被害の波及などをどうさばくのかも注目されている。